

新しいリハビリテーションアプローチで寝たきり老人の病院で 入院患者の30%が歩行を再獲得

森田能子¹・滝沢茂男²・和田里佳³

¹岡山リハビリテーション病院

²バイオフィリア研究所 ³立花整形外科クリニック

キーワード;動機付けの練習、フィールドワークの統計分析

要旨

新しいリハビリテーションアプローチで寝たきり老人の病院で入院患者の30%が歩行を再獲得できた。

このリハビリシステムによる以下2つの臨床試験の分析結果を発表する。

- 1) このリハビリシステムを利用した他施設の効果
- 2) 自主的な在宅リハビリテーション実践の結果

半世紀前日本では、少数のセラピストと助手による訓練を受けることのできた病院の入院患者でさえ、多くの障害を持つ高齢者は死ぬまで寝たきりでした。高齢者が、病気で障害者になり、その後に寝たきりになることが多かったので、私たちは彼らの運命を受動的に受け入れました。

その時期に、滝沢恭子 RPT は、彼女の患者を治療するために、彼女自身が作った多くの種類の簡単なツールを用いた運動トレーニングを実施し、成果を上げていました。

この状況を見た息子の滝沢茂男氏は、政治家として、将来の高齢社会への対応を模索する中で、その事実が、社会へ大きな影響を及ぼすことを明確に認識し、母親に、その実施しているリハビリテーション（リハ）がシステムであることを提言しました。しかし、結果が個に帰すると思いついていた恭子氏が理解することはありませんでした。氏は議員を辞め、毎日、手法がシステムであることを認めさせるべく説得したと聞きます。そのころ、氏の発明である歩行器が国の支援で開発されました。

私と滝沢氏と出会ったのはそのころです。青森県の日本リハビリテーション医学会で、開発を終えた歩行器の展示に来ていました。私はそこで見たその歩行器が気に入り購入することにしました。そして、発注し、氏は配達に来ました。神奈川県藤沢市から岡山県の岡山市に配達に来た事になります。交通費は5万円に近くなりとてもペイしない配達です。

どうもこの配達には他の大きな目的があったようです。後日聞くとところによると氏の組織した研究会は理学療法士が中心であり、かつまた、その研究会の立ち上げに協力してくれた医師は氏の政治活動から協力を申し出た藤沢市内の医師会の重鎮、中には日本臨床性外科学会の直前理事長が含まれていました。さらにはこの研究会を立ち上げるのにあたって、歩行器開発の関連で協力を依頼した国立障害者リハビリテーションセンター病院の当時の副院長、日本のリハ医学の基礎を築いた医師などで、現場に関わりのある医師ではなく、功なり名を遂げた著名な医師たちがメンバーに入っていました。

氏はそうした著名な医師ではなく、PTのみではなく現場のリーダーになり得る医師を求めていたようで、私が発注したことが、訪問し、研究参加を依頼する機会が生まれたと喜んだと聞いています。

その後私は、多くの研究に参加しましたが、藤沢市で行われた追試、さらには大分県で行われた追試に参加し、その経過が今回の発表の中心になっています。

(方法) このプログラムの利点を証明するために2005年と2007年に2つの調査をすることを計画しました。前者2005年の研究では神奈川県のリハビリテーションセンターにおいてこのリハシステム導入前後のADLをFIMスコアによってデータ化しました。後者の2007年のコミュニティフィールドネットワークでは、大分県三重町で介護保険認定調査(LTCIS)からリハシステムの効果のデータをまとめました。

(結論) 神奈川県と大分県の両方の調査研究は統計処理を駆使して従来の受動的トレーニンググループよりも我々の推奨する創動運動グループの方が期待される結果が得られることが分かりました。

(概要) 滝沢氏と私たちBiophiliaの会員は、長期のリハビリテーションセンターやコミュニティ分野でこのリハプログラムがあくまでも個人主導で行うことで、根底にあるモチベーションエクササイズの強みでグループ訓練にも最適でかつ有効であることを立証したので高齢化社会の切り札として推奨しています。

私たちは団塊世代で、まさに、「これから社会にお世話になるばかり」というこれまでの考え方で対応される世代です。そして、公的保険基金の不足はすでに始まっているのではないかと心配しています。障害のある患者や虚弱な患者は、公的医療保険によってのみ、自分自身で身体能力またはADL能力を維持する必要があります。我々が研究を進める創動運動は、これらの困難な状況から救い、残りの独立した人生をより長く生きるために役立ちます。

こうした重要な研究を共に出来、ISPRMや2国間セミナーで報告できたことを喜んでます。そして、一日も早く普及できるようにこれからも研究を進めていきます。読者の研究や普及活動へのご参加を期待しています。